

孟德斯鳩著
何禮之重譯

萬法精理

第十冊 卷世二

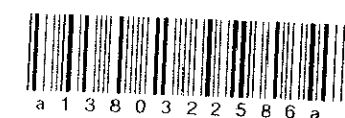
51024

分類		號
社會科學部		
法律學部		
紀錄	叢書	項
		次
卷	18	冊
分冊	第	號
3200		

T1 A1

23

Ka11ba



孟德斯鳩著
何禮之重譯

萬法精理

明治九年
一月刻成

何氏藏版

萬法精理卷之廿二目次

貨幣ノ用法ニ關スル原理ヲ論ス

第一回 貨幣ヲ用ユル理由

第二回 貨幣ノ性質ヲ論ス

第三回 假定ノ貨幣ヲ論ス

第四回 金銀ノ量額ヲ論ス

第五回 同上

第六回 印度ノ征服以來金利下落シテ半價ニ

到リシ理由

第七回 富ノ信標貨幣 浮沈スルニ從テ物價昇

降スルノ理由

第八回 同上

第九回 金銀比較ノ豐富ヲ論ス

第十回 為替相庭ヲ論ス

第十一回 羅馬人ノ貨幣ニ於ル政畧ヲ論ス

第十二回 羅馬人ノ金銀ノ價ヲ變化シタル事

情

第十三回 羅馬帝國タリシ時ニ貨幣ニ就テノ

施設

第十四回 為替相庭アルニ因テ專制政ノ權威

ヲ抑制セル所以ヲ論ス

第十五回 伊太利ニ實施シタル慣習

第十六回 國家時トシテ銀行ノ扶助ヲ得ベキ

事

第十七回 公債ヲ論ス

第十八回 公債償却ノヲ論ス

第十九回 放債収利ノヲ論ス

第二十回 海上高利貸ノヲ論ス

第二十一回 契約ヲ以テ債ヲ放ツト及ヒ羅馬人

ノ高利貸ノ情態ヲ論ス

第廿二回 同上

萬法精理卷之廿二 目次終

萬法精理卷之廿二

何 禮之重譯

貨幣ノ用法ニ關スル原理ヲ論ス

第一回 貨幣ヲ用ウル理由

野蠻不文ノ人民ハ勿論開化セル國民ト雖モ僅々二三ノ物貨ヲ所有スル者ノ如キハ賣買ノ物品甚ク多數ナラサルヨリ其商業ハ實ニ以物換物ノ景況ナリ故ニ亞弗利加ノ中部ニ在テ世間ノ事情ニ通セサルトハバクチニ往販シテ巨利ヲ獲ル所ノ隊商ハ食塩ヲ賣ラシテ土人ノ金ト交易シ更ニ貨幣ノ媒介ヲ要スルヲナシ

其交易ヲ爲スヤ隊商ハ塩ヲ一方ニ積ミ土人ハ金ヲ一方ニ堆ミ彼此ノ積量ヲ比較シ金足ラサレハ塩ヲ減シ塩餘レハ金ヲ増シ金塩全ク同量ニ到ルヲ俟テ始メテ貿易ノ約成ルナリ

然レ氏國民ノ情態漸ク閑進シテ貿易スル所ノ物品漸ク繁多ナルニ及テハ既ニ物品直換ノ舊俗ニ因襲シ能ハス是ニ於テ貿易ヲ經營スルニ必ス夫ノ巨大ノ失費ヲ省キ且運搬ニ便ナル金銀ヲ用キサルヲ得ス是レ通用貨幣ノ一日モ無カル可ラサル所以ナリ

宇内ノ諸國民一トシテ物品ヲ需用セサルモノ無シ故ニ譬ヘハ甲國ハ我カ物産ヲ仰クヲ極メテ鮮ナキ所ノ乙國ニ對シテ多量ノ貨物ヲ需求スルモ却テ丙國ニ對シテハ我需用ニ供スルモノ鮮ナクシテ其需求ニ應スルヲ居多ナルヲ猶ホ乙ノ甲ニ於ルカ如キモノ往々之アリ斯ノ如ク自他ノ國民齊シク貨幣ノ媒介ニ賴リテ賣買ノ業ヲ營ムニ方テハ物貨ヲ購買スルヲ更ニ多キ國民必ス貨幣ヲ出シテ以テ輸入ノ輸出ニ超過スルヲ補足スルヲ定則ナリトス然リ而シテ物貨ヲ購買スルト及ビ之ヲ交易スルトハ其情況固ヨリ同シカラス購買ノ場合ニ於テハ其經營スル商業ハ之ヲ買取スル國民

ノ需要ノ多寡ニ應レテ盛衰ヲ致シ交易ノ場合ニ於テハ需要ノ少キ國民カ物貨ヲ求ムルノ多少ニ應レテ増減レ以テ彼此ノ過不足ヲ相互ニ償補ス

第二回 貨幣ノ性質ヲ論ス

貨幣ハ一切物價ノ代理タル信標ナリソノ特リ金屬ヲ用ヰテ他物ヲ用ヰサル所以ハ蓋シ其質堅固ニシテ腐朽セス絶エス衆人ノ手ヲ經由轉換スレバ消耗磨損極メテ微細ニシテ而モ之ヲ零星ニ分割スルモ其實ヲ毀傷スルヲナク殊ニ運搬スルニ容易ニ、携帶スルニ便利ナルヨリ自然ニ人心ノ赴ク處之ヲ擇テ以テ物價ノ信

標ト為スニ至レリ且又千百ノ多數ヲ全一ノ重量ニ鑄造ス可キハ金屬ハ一物ヲ除キテ他ニ之ヲラサルカ故ニ之ヲ普通公用ノ度量ト定メ各國皆テ其表面ニ特殊ノ國章ヲ印刻シテ其形狀ト其本位重量トニ差異ヲ生ヤシメス一見ノ下直チニ此二格ノ具備ヲ辨知セシメタリ

雅典人ハ未タ貨幣鑄造ノ術ヲ知ラス之レニ代フルニ剗牛ヲ以テシ羅馬人ハ綿羊ヲ用ヰタリ然レバ此ノ剗牛ヲシテ彼ノ剗牛ト肥瘠相同ジカラシムルヲ猶ホ今日二塊ノ貨幣ノ全ク同位同量タルカ如キハ決シテ其

能ハサル所ナリ往古未開ノ世ノ不便ヲ想像スヘキノ
紙幣ヲシテ正貨ノ價ヲ表スルノ信標タラシムルハ恰
モ是レ正貨ヲ以テ物價ノ代理タル信標ト定ムルニ異
ナラス若シ其發行スル所ノ紙幣正確ニシテ人心ノ危
疑ヲ招カサルハ物價ノ代理タル所ヨリ生スル效果
ニ於テ毫モ正貨ニ遜ルヲ無シ
而シテ各物品復タ貨幣ノ信標トナリ其代理ノ用ヲナス
ヲ猶ホ貨幣ノ各物品ニ於ルカ如ク彼此互ニ相依賴ス
ルカ故ニ一方ニ於テハ貨幣能ク一切ノ物品ニ代テ通

用ニ一方ニ於テハ諸ノ物品亦能ク貨幣ニ代用シテ互
ニ信標ト為リテ相滞ラサルヲ國家繁昌ノ景況ナリト
ス更ニ之ヲ詳説スレハ貨幣物品ノ二者ハ互ニ相因ル
ノ價格ヲ有シ吾人苟モ貨幣ヲ有スレハ直チニ物品ヲ
得ヘク物品アレハ忽チ貨幣ニ換フ可キノ謂ナリ然レ
モ苟モ立憲有制ノ政体ニアラザルヨリハ決シテ此良
果ヲ結フヲ望ム可ラサル而已ナラス假令有制ノ政
体ニ於ルト雖モ常ニ茲ニ到ルヲ期シ難キナリ譬ハハ
法律公平ナラス負債者ヲ曲庇シテ債主ニ家財執押ノ
權ヲ得セシメサレハ則チ負債者ノ家財ハ忽チ貨幣ノ

代用ト為リ之カ信標タルノ功用ヲ失ス可シ況ヤ專制
政ノ如キニ至テ何ノ物品ヲシテ其信標タルノ價格ヲ
保タシム可クシヤ萬一之アラハ奇異ノ二字ヲ下サバ
ルヲ得ス蓋レ暴政上ニ行ハレ信憑地ニ墜タル邦土ニ
在テハ人民各其貨幣ヲ地中ニ埋藏シテ一物ノ敢テ貨
幣ノ代用シルモノアラサレハナリアルゲールニ於テハ家父タルモノ必
地中ニ多クノ實貨ヲ埋藏スヘキノ舊俗アリ
制法者ハ時アリテ物ノ性質ニ從テ貨幣ノ代用タラシ
ムルノ伎倆アルノミナラス更ニ之ヲ正貨ニ變換シテ
流通滞ラナラシムルヲ得ヘシ羅馬ノシーガルハ曾テ

國宰ノ職ニ在ルニ方テ若シ債ヲ負フ者其債ヲ還償セ
ント欲セハ内亂前ノ市價ニ照シテ其所有ノ土地ヲ債
主ニ交付スルヲ許容シタリ又チベノユス帝ハ貨幣
ヲ要求スル者若シ其價ニ一倍セル土地ヲ抵當ニ出セ
ハ國庫ヨリ之ヲ收受ス可シト命令セリ據此觀之レ一
ザル執柄ノ頃ハ土地ヲ以テ直チニ一切ノ負債ヲ償還
スヘキ貨幣ナリト認メタリシモチベリユス帝ノ治世
ニ至テハ一万圓ノ價アル土地ニシテ纔カニ銀貨五千
圓ニ相當セリ以テ時世ノ汚隆ヲ知ルニ足レリ
英國ノ大憲典ニハ若シ負債者ノ動産ヲ以テ其債ヲ賂

償スルニ足り且ツ所有主者^{負債ニ於テ之ヲ債主ニ交付}
スルヲ拒マサル間ハ決シテ債主ニテ其所有地或ハ
収入ヲ押執スルヲ禁制セリ英國人ノ家財モ亦貨幣
ニ代用シタル景況ヲ見ル可シ

日耳曼人ノ法律ニ據レハ貨幣ヲ以テ被害人ノ損害ヲ
賠償シ犯罪者ノ刑罰ヲ收贖セシメタリ然ルニ其國甚
ク正貨ニ乏シキヲ以テ人民ニ後タ財産ヲ以テ貨幣ニ
代用スルヲ許容セリ是レ撒遜人^{日耳曼人種ノ一部落}ノ律例
中ニ人民諸族ノ貧富貴賤ニ應シテ贖罪ノ金額ニ一定
ノ制規アリテ多寡相同シカラサルヲ看ル所以ナリ其

法則預レノ貨幣ニテ家畜ノ價ヲ定メニ金ヲ以テ一年
ヲ經タル割牛一頭若クハ一仔ヲ有セル牝羊一頭三金
ヲ以テ十六个月ヲ經タル割牛一頭ニ等シキ價格ト定メ
タリ然ラハ則チ此人民ニ在テハ貨幣ハ家畜家財ト成
リ家畜家財ハ亦貨幣ト成リテ彼此互ニ流用スルヲト
見ヘタリ
貨幣ハ諸物ノ信標タルノミナラス而モ亦通貨ノ信標
トナリテ其代用ヲ為スモノナリ其詳カナルハ爲替相
虞ノ編ニ論スヘシ

第三回 假定ノ貨幣ヲ論ス

貨幣ニ真偽、二種アリ。開化國民ハ真貨ヲ假貨ニ變シテ作スヲ以テ概シ、假貨ノミヲ通用スルヲ殆ト一般ノ風習ト爲レリ。蓋シ當初通用スル所ノ真貨ハ一定ノ重量一定ノ本位ヲ備ヘタル金屬ニアラサルハ無カリシカ。政治公正ヲ失スルニ依リ或ハ國幣匱乏ヲ告ルニ依リテ真貨ノ金貨幾分ヲ削去シ其重量ヲ減シテ尚ホ依然トシテ舊時ト同一ノ名稱ヲ下セリ。譬ヘハ重量一リ一プル大略ニ十錢ニ當ルノ金貨ヲ半量ニ減シテ尚ホ一プル一プルト稱シ或ハ其初メ一磅二十分一ノ重量アル白銀ヲ一「ス」ハ唱ヘレカ今日ノ一「ス」ハ決シテ此重量ヲ有

スルヲ無シスノ如ク一「リ」ブルノ金、一「ス」ノ銀ハ今日其名稱ヲ存スルノミニテ其實量アルヲ無シ之ヲ假定ノ貨幣ト稱セサルヲ得シヤ。自餘ノ小部分ニ至テモ亦然ラス。シハアラス故ニ今日一「リ」ブルノ重量ヲ減シテソノ五分ノ一若クハ十分ノ一ト作レテ之ニ一「リ」ブルノ假名ヲ下スヘク甚レキハ世人絶テ一「リ」ブル一「ス」ノ價位ヲ具ヘタル真貨ヲ見サルニ到ル可シ。夫レ物ノ性質ヲ變スルヲ無ク唯々其名稱ヲ改ムルハ固ヨリ難事ニアラサルヲ以テ經濟ノ原理ヲ知ラサル政府ハ更ニ貨幣ノ種類如何ヲ問ハス隨意ニ若干「リ」

ブル若干「ス」ノ名稱ヲ下レテ恬トレテ顧忌スル處ナ
キナリ

此弊源ヲ杜絶セント欲セハ法制ヲ立テ一切ノ貨幣ハ
都テ名實相當セルモノヲ通用レテ假貨ノ世上ニ現出
スルヲ防止セサル可ラス貿易ノ繁昌ヲ希圖スル政界
ハ此ヲ措テ他ニ良策アルヲ無シ
價格一定レテ變易セサルハ唯々萬國共通ノ一物
ニ限レ可シ

貿易ノ性質ハ變易定ナシ其定ナキ性質ノ貿易上ニ加
フルニ後々浮沈常ナキノ假貨ヲ用ケレハ其害勝テ計

ル可ラサルナリ

第四回 金銀ノ量額ヲ論ス

宇内ノ權力、開化國民ニ歸スル間ハ金銀ヲ我カ國中ニ
取ルト或ハ之ヲ礦山ヨリ採出スルトニ拘ラス其量額
ハ日ニ月ニ増加スヘケレバ若シ不幸ニシテ夷蠻蠻狂
ノ民天下ニ横行スルヲアラハ忽チ量額ノ減絀ヲ致ス
可シ昔時ゴット、フハングル、サラセン、タルタルノ四夷
蜂起シ我カ文明界ニ侵入シテ恰モ進潮ノ止ム可ラナ
ル勢フルニ方テ大ニ缺乏セレテ觀テモ金銀量額増減
ノ理ヲ知ルハキナリ

第五回 同上

亞米利加ノ諸礦ニ採ル所ノ金銀塊ヲ歐羅巴ニ船輸レ
之ヲ并ニ歐羅巴ヨリ東洋諸邦ニ運送シテ大ニ我カ歐
洲諸國民ノ航海貿易ヲ増進シタリ是レ此金銀塊ハ其
初メ歐羅巴人之ヲ亞米利加人ト通商シテ收受シ而ノ
後タ通商ノ爲メ之ヲ東洋ニ輸送スル所ノ物貨ナレ
バナリ故ニ金銀ヲ一種ノ商品ト視テ論シ來ルキハ其
量額ノ著シク増殖スルハ固ヨリ社會ノ利益タルヲ疑
ノ可ラスト雖モ若シ之ヲ物ノ信標ト觀察シ去ルキハ
量額ノ増殖ニ從テ人々之ヲ得ルニ難カラス其固有ナ

ハ貴重ノ品格ヲ失シテ終ニ社會ニ利益ヲ與フルヲ能
ハサルヘレ

羅馬ニテ阜尼ノ初役前ハ銅九百六十ヲ以テ銀一銀ハ
スレハ四十九リリブルノ價アリ其一銀ニ相當セシカ
シドレハ銅二十スレノ價ト假定レタリ
今日下落レテ殆ド七十半ト一トノ比量トナレリ然レ
ハ則チ銀貨ノ通用ハ饒多ノ今日ニ於ルヨリモ缺乏ノ
昔時ニ於テ更ニ能ク物ノ信標タル利便ヲ著セシナリ
第六回 印度ノ征服以來金利下落レテ半價ニ到
リレ理由

ガルシラツソー曰ク西班牙ニテ金銀貸借ノ利子ハ原ト

百分ノ十二限リシガ印度ヲ征服シテ以來減シテ百分ノ五ト為レリ是レ其情勢已ハヲ得ザルノ效果ナリ何トナレハ巨額ノ金銀ヲ一時ニ歐羅巴ニ輸入セルヲ以テ貨幣ヲ需ムル人ハ日ヲ逐フテ減少レソノ價格低落スルニ從ヒ物價ハ日ヲ逐フテ沸騰シ舊來物品ト貨幣ノ間ニ存スル所ノ權衡一朝其平均ヲ失スルヨリ世人爭テ舊債ヲ償却スルニ由レリ佛國ニ於テローナル者一時投機ノ空商ヲ營ムニ方テ金銀ノ價益低落シ物價益昇騰レタルモ亦タ全ク此理由ニ外ナラスシテ西班牙ニ於テハ印度ヲ征服セル後ニ貨幣ヲ所有スル者ニ

テ金利ヲ減少セサルヲ得サリレナリ

歐羅巴ニ輸入スル所ノ金額一年ハ一年ヨリ夥多ニシテ消耗ノ景況更ニナキヲ以テ此時ヨリ金利ハ日ニ月ニ下流ニ趣キ遂ニ之ヲ昔時ノ制ニ挽回スルヲ能ハサリキ殊ニ二三ノ邦土ニ於テハ貿易ヲ以テ所獲ノ餘財ヲ資本トシテ人民ニ貸與スル所ノ公債ハ其利極メテ低廉ナルヨリ私民彼此ノ間ニ所結ノ貸借ノ契約モ之ニ依准シテ其利子ヲ定メサルヲ得ス概シテ之ヲ言ハハ貿易ノ道日ニ開ケ為替ノ方便ニ由リテ貨幣ノ運轉極メテ自在ナルニ至レハ餘裕アル者ハ他人ノ需要ヲ

俟テ容易ニ之ヲ供給スヘキヲ以テ更ニ貨幣ノ匱乏ヲ生セサルナリ

第七回 富ノ信標 貨幣 浮沈スルニ從テ物價昇降

スルノ理由

貨幣ハ物品若クハ製造物ノ代價ナリ然ラハ則チ世人如何シテ此代價ヲ定ム可キカ又如何ナル貨幣ヲ以テ百物ノ代用ヲ勤ムレム可キカ

試ニ宇内萬國ニ通用スル金銀ノ全量ヲ將テ之ヲ此地球ニ全載スル一切ノ物貨ニ比較セヨ、則チ各件ノ物貨ハ金銀全量ノ一分ニ相當ルハ必然ニシテ世界金銀ノ

全額ハ乃チ物貨ノ總數ニ相對スルヲ以テソノ一分ハ亦物貨ノ一分ニ相對セシムハアラサルヘレ譬ヘハ今世界中ニ唯タ一種ノ物貨アリテ專ラ賣買ノ業ニ用ユヘク而メ其物ハ貨幣ノ如ク之ヲ分割ス可キモノナレハソノ一分ハ金銀ノ一分ニ當リ其半額ハ金銀ノ半額ニ當リ自餘十、百、千、分ノ一ニ於ルモ亦然ラサルハ無カルヘレ然リト雖凡人類ノ財產ハ皆ナ一時ニ買賣ニ用ウルモノニアラズ且ツ財產ノ信標タル貨幣モ亦齊シク一時ニ運轉スルモノニアラザルガ故ニ物價ヲ定ムルニハ必ス貨幣ノ全額ト物貨ノ總額トノ複比例

ヲ取ラザル可ラス然リ而メ今日買賣セザル所ノ物貨
モ明日ハ貿易ノ用ニ供シ得ベク貨幣ト雖モ亦然ラザ
ルハ無キヲ以テ物價ヲ定ムルノ根元ハ貨幣ノ全額ト
物貨ノ總額ニ胚胎セサルハアラサルナリ
故ニ國君權相ハ一紙ノ命令ヲ下シテ通貨ノ一ト十ノ
比例ヲ改メテ之ヲ一ト二十ノ比例ト為スヲ得ヘシト
雖モ其命令スル所ハ唯タ名稱ニ止マリテ決シテ物價
ノ真位ヲ高低スルヲ能ハズ見ザルヤ、ジュリアン帝ハ
アンチヲツキ府ニ於テ食料ノ價ヲ低下ナラシメ之ニ
因テ慘烈ナル飢饉ノ禍ヲ釀成セシメテ

第八回 同上

亞弗利加ノ海濱ニ住メル黑人ハ別ニ貨幣ヲ用ヰズシ
テ物價ノ信標ヲ定メタリ此信標ハ全ク其想像ニ出ル
モノニシテ該人種ハ物品ヲ需要スルノ緩急ニ應シ其
心情ノ欲否ヲ以テ各物ノ貴賤ヲ量定シ其價格ヲ高低
スルノ根基ト為シテ一定ノ物ニ或ハ三「マク、」ト或
ハ六「マク、」ト或ハ十「マク、」トノ價ヲ附スルヲ猶
ホ單ニ三「マク、」ト六「マク、」ト或ハ十「マク、」ト言フ
ガ如シ此價ハ百物ヲ彼此互ニ比較シテ相定ムルセノ
ナレハ土民ハ特殊ノ貨幣ヲ有セザレモ百物ノ間自ラ

相關照シテ貨幣ノ用ヲ為スナリ

今姑ラク我カ國土ニ於テ物價ヲ定ムルニ此方法ヲ施行スルモノト假想セヨ、果シテ然ラハ世界中一切ノ物貨或ハ他國ノモノト區別ヲ立クル一國中ノ物貨若クハ製造品ハ必ス若干「マクコト」ノ價格ヲ有ス可シ茲ニ於テ一國ノ貨幣ヲ分割シタル貨幣ハ即チ一「マクコト」ノ信標ト為ル可シ

若シ一國正貨ノ量額増加レテ一倍ト為ル「アラバ」マクコト「貨幣モ亦必ス一倍スルナラン斯ク正貨ノ量額一倍スレハ「マクコト」ノ分量モ亦昇リテ一倍スルモ

其比例ハ猶ホ依然トシテ増加セサルノ時ニ異ナルヲ無シ

若シ印度ヲ發明セシニ依リ歐羅巴ノ金銀價ニ増加シテ一ト二十ノ比例ニ至レハ食料物貨ノ價モ亦從テ騰貴シテ一ト二十ノ比例ト為ラザルヲ得ス然レモ若シ一方ニ於テ買賣ノ物數一ト二ノ比例ヲ以テ増加スルハ其ノ一ト二十ノ比例ヲ以テ騰貴シタル物價亦一ト二ノ比例ニ低落スルカ故ニ究竟金銀ト物價ノ比例ハ一ト十二於ルカ如キニ過キサルハ必然ナリ
物貨ノ量額ハ貿易繁昌スルニ從テ増殖シ貿易ノ景況

ハ續々輸入スル所ノ貨幣ノ増加スルト及ヒ新々々海外ニ邦土ヲ發見シテ通商貿易ノ道ヲ開クニ依テ繁昌スルモノナリ

第九四 金銀比較ノ豐富ヲ論ス

金銀ニハ實際ノ盈縮アル而已ナラス其一種饒カナレハ他ノ一種從テ乏シク互ニ相比較シテ豐富ヲ為スアリ

多欲飽クナキ人ノ只管ニ金銀ヲ蓄藏スルハ更ニ之ヲ消費スルノ難易ニ關係セス且其性腐朽スルノ患ナキヲ以テ唯タ物貨ニ代用ス可キ信標ヲ愛惜スルナリ又

是等ノ人金ヲ嗜ハテ銀ヨリ甚シキハ蓋シ金ハ銀ニ比スレハ其積量輕細ナルヨリ失亡ヲ防カンカ為メ之ヲ隱藏スルニ最モ便利ナレハナリ是故ニ銀貨世上ニ夥多ナルハ各人皆テ金貨ノ收藏ヲ謀ルヨリ忽チ金貨缺乏シテ銀貨ノ不足ヲ致ス既ニ銀貨不足スレハ各人之ヲ庫中ヨリ出サバルヲ得サルヲ以テ金貨再々世上ニ流通ス

據此觀之金貨ハ銀貨ノ不足ニ因テ世上ニ流通シ銀貨ノ饒多ナルニ由テ缺乏スルヲ不易ノ大則トスルカ如シ是レ金銀二貨ニ彼此關涉ノ盈縮アル所以ナリ其詳

細ニ至テハ之ヲ次回ニ論究スル所アラントス

第十回 為替相庭ヲ論ス

甲乙二國ノ貨幣ニ比較ノ豐歉ヲ生ス之ヲ為替相庭ト名メ

為替相庭トハ一時貨幣ノ現價ヲ定ムル所ノモノナリ銀ヲ唯タ金屬ノ一種トシテ觀ルハ自餘ノ諸物ト齊シク實價ヲ有チ而メ又物ノ信標タル功用アルニ因テ更ニ一層ノ價值ヲ加有ス若シ銀ヲシテ幣ニ金屬タル價ノミヲ有ツト自餘ノ諸物ニ異ナラサシメハソノ今日ノ價格幾分ヲ失フハ必然ナリ

銀ヲ貨幣トシテ論スルハ一定ノ價格アリテ或ハ國君其高低ヲ定メ得ハク或ハ之ヲ定メ能ハサルモノアリ

第一、國君ハ金屬タルノ銀量ト貨幣タルノ銀量ト間ニ一定ノ比例ヲ制定スヘシ、第二、貨幣ノ用ニ供セル諸金屬ノ間ニ一定ノ比例ヲ制定スヘシ、第三、各貨幣ノ度量ト本位トヲ制定スヘシ、第四、右各種ノ貨幣ニ假定ノ價位ヲ付與スルヲ既ニ前ニ論スルカ如キヲ得ヘシ而メ貨幣ニ此四様ノ價アルハ全ク法律ノ作用ニ出ルモノニシテ物理ノ自然ニ非サルヲ以テ之ヲ人為ノ價ト

稱シテ可ナリ

各國ノ貨幣ハ此人為ノ價ヲ有スルノ外更ニ之ヲ他國ノ貨幣ト比較シテ彼此開涉ノ價アリ此比較ノ價ハ為替相庭ノ影響ニ因テ高低ヲ致シ其源ハ物理自然ノ實價ニ發シテ全ク商賈ノ輿論ヲ以テ確定シ變化極マリナク決シテ國君命令ノ能ク之ヲ軒輊シ得ル所ニアラサルナリ

諸國ニ於テ此比較ノ價ヲ定ムルニ方テハ專ラ多量ノ正貨ヲ有スル邦國ヲ標準ニ立テ若シ某國所有ノ正貨ハ自餘諸國ノ所有ヲ總計セル額數ニモ匹敵スヘキ片

ハ則チ他ノ諸國ハ皆ナ該國ヲ本位ト認メテ各自ノ價格ヲ規定スルヲ至當ノ方法ナリトス然リ而シテ自餘諸國ノ間ニ於ルモ亦殆ト該國ノ規則ニ則リテ相交易スルモノナリ

宇内ノ財政上ニ就テ之ヲ觀ルニ爰ニ論スル所ノ標準ト認ムヘキ本國ハ和蘭ヲ除キテ其他標準トナルヘキ國アルヲ見ス今該國ニ就テ為替相庭ノ景況ヲ論スヘシ

茲ニ和蘭國ニ「ロリント」稱スル一種ノ貨幣アリ「ロリント」ノ價ハ二十「スー」即チ四十錢

半「スー」ニシテ即チ「グロス」トス

ニ相當レリ然レモ一層文意ヲ明瞭知リ易カラシメ
ガ為メニ假ニ和蘭ニ「フロリシアル」ナク其貨幣ハ唯
タ錢ノ一種ニ限ルト想像ス可シ然ルモハ他國ノ人ニ
シテ和蘭ニ於テ一千「フロリシ」ヲ所有スルモノハ即チ
四万錢ヲ所有スルニ相當ルカ故ニ和蘭ニ對シテ為替
相庭ノ高低ヲ決定スルニハ先ツ他國各種ノ貨幣ハ幾
多ノ錢ト同等ノ價ヲ有スルヤヲ料リ知ルニ在リ我カ
佛國ノ如キハ常ニ一圓銀即チ三「リール」ヲ以テ計算
ノ基本トスルヲ以テソノ為替相庭ハ一圓銀ハ幾十錢
ニ相當スルヤヲ了知スルヲ緊要ナリトス五十四ノ相

庭トハ一圓銀ヲ以テ五十四錢ノ價ニ對スル謂ニシテ
六十ナレハ則チ六十錢ノ價アリ若シ佛國銀ニ乏シク
レハ一圓銀ニ相當スル錢數自カラ増加シ銀多ケレハ
其數相減ス
斯ク為替相庭ノ昇降ヲ胚胎スル金銀ノ多寡ハ實際ノ
豐嗇ニアラスシテ全ク自他比較シテ相生スルモノナ
リ例ヘバ若シ佛人ノ和蘭ニ於テ財本ヲ持有スル「更
ニ和蘭人ノ佛國ニ於ル」ヨリモ更ニ居多ナルモハ佛國
ニ貨幣多クシテ和蘭ニ寡ナク其勢相反スレハ和蘭ニ
多クシテ佛國ニ寡ナキナリ

試ニ佛國ヨリ和蘭ニ對セル為替相庭ヲ五十四錢ナリ
ト假定シ而シテ若シ右二國相合シテ一都府ヲ成シタ
ラシニハ該二國ノ人ハ唯タ尋常ノ通貨ヲ兌換スル手
續ニ依リ佛人ノ囊中ヨリ一圓銀ヲ出シテ之ヲ蘭人ノ
五十四錢ニ易フヲ得ヘシト雖モ巴里安特堤二府ノ間
ニ若干ノ距離アリテ咄嗟ニ辨了ス可キニ非サルヲ以
テ佛人ニシテ和蘭ニ於テ一圓銀ヲ仕拂フヘキ人ハ之
ニ代ケルニ必ス五十四錢ノ為替手形ヲ付與セサル可
キス然ルニ此五十四錢ハ現貨ニ非ズシテ乃チ該金額
ニ兌換スハキ證券ニ過キサレハ之ヲ得ル人ハ該證券

ヲ受取ルニ先テ兩國貨幣ノ豐蓄ヲ判斷センカ為メ
ニ佛國ヨリ和蘭ニ向テ振出シタル錢貨ノ手形ハ和蘭
ヨリ佛國ニ向テ振出シタル銀圓ノ手形ヨリモ多數ナ
ルヤ否ヤヲ測知セサル可ラス若シ和蘭ヨリ振出シタ
ル手形果シテ佛國ヨリ振出シタル手形ヨリモ居多ナ
レハ貨幣ハ佛國ニ少ナクシテ和蘭ニ多キ道理ニシテ
為替相庭隨テ騰貴シテ蘭人ハ一圓銀ニ付キ五十四錢
以上ノ比例ヲ以テ之ヲ佛人ニ與ヘサレハ佛人ハ其手
形ヲ渡サバル可シ和蘭ニ貨幣少ナキ時ハ全ク之ニ相
反ス

為替相庭ノ高低ニ因テ債主ト負債者ノ計算ヲ造成ス
ルヲ斯ノ如シ而ノ此計算ハ時々之ヲ算清セサル可ラ
ス且ツ債ヲ負ヘル邦國カ為替ノ方便ニ依リテ其債ヲ
償却スルハ猶ホ各私人カ銀價ノ變化ニ應シテ仕拂ノ
時ニ損益アルヲ免レサルカ如シ

若シ寰區内ニテ國ヲ成スモノ唯タ佛蘭西、西班牙、和蘭
ノ三國ニ止マリ西人ハ佛國ニ十万「マルク」ノ負債アリ
佛人ハ西班牙ニ十一万「マルク」ノ負債アラシニ萬已ハ
ヲ得サルノ事情ヨリシテ右二國ノ人民互相ノ會計ヲ
定メテ各其貨幣ヲ回收スルニ至テハ為替相庭ノ景況

ハ果シテ如何ナル可キカ他無シ、右二國ノ會計ハ十万
「マルク」ヲ清算スルニ止マリテ究竟佛人ハ西班牙ニ對
シテ尚ホ一万「マルク」ノ負債アリ之ニ反シテ西班牙人
ハ尚ホ佛國ニ向タル一万「マルク」ノ為替手形ヲ所有ス
可シ

然ルニ若シ蘭人ノ佛國ニ於ルハ全ク佛人ノ西班牙ニ
於ルカ如キ地位ニアリテ右兩國ノ間ニ會計ヲ定ムル
片ハ蘭人ハ一万「マルク」ヲ佛國ニ拂ハザルヲ得ス果レ
テ然ラハ佛人ハ西班牙ニ拂フニ二様ノ方法ニ依ルハ
レ即チ佛人ハ其蘭國ニ向タル一万「マルク」ノ手形ヲ西

班牙人ニ轉付スルカ或ハ一万コトシテ蘭國ヨリ受取
テ之ヲ西班牙ニ輸送スルカ是レナリ

然ルヲ以テ若シ甲國ヨリ乙國ニ若干ノ金額ヲ拂ヒ出
スヘキ場合ニ臨テハ現貨ヲ輸送スルモ或ハ為替手形
ヲ以テスルモ理ニ於テハ更ニ差異アルヲナシ此二法
ノ利害得失ハ唯々實際ノ事情如何ニ在ルノミ茲ニ右
二法ノ中ニテ那ノ一法ニ依レハ蘭國ニ於テ最多ノ錢
數ヲ得ヘキヤヲ考究セントス

若シ佛國ニテ一定ノ本位重量アル貨幣ヲ將テ蘭國ニ
於テ全ク之ト同位同量ノ貨幣ニ兌換シ得ヘキキハソ

ノ為替相庭ヲ同等ナリト云フ實際ニ於テハ同等ノ相
庭ハ大約銀一圓ニ付五十四錢ニ相當スルヲ以テ五十
四錢以上ニ當ルヲ相庭ノ騰貴ト云ヒ其以下ヲ低落ト
云フ

為替相庭ノ浮沈定ノ無キ事情ヨリ一國ノ得失ヲ致ス
所以ヲ了知セント欲スルニハ先ツ彼我二國ヲ負債者
債主ト認メ又買主賣主ト認メテ考察ヲ下スヲ要ス若
シ相庭低落シテ同等ノ下ニ在ルハ乃チ負債者ト為
リテ損失ヲ蒙ルモ債主トナリテ利益アリ又買主ト
ナリテ損失スレモ賣主トナリテ利益アリソノ負債者

トナリテ損失アル所以ハ知り難キニアラス例ハ佛國ヨリ蘭國ニ若干錢ノ負債アルニ若シ佛國ノ相庭下落シテ一圓銀ニ當ル所ノ錢貨少數ナルキハ蘭國ニ償フ可キ圓銀ノ數ヲ増サイル可ラス之ニ反シテ若シ佛國ヨリ蘭國ニ若干錢ヲ貸出シタルニ佛國ノ相庭下落シテ一圓銀ニ當ル所ノ錢貨少數ナレハ其收納スヘキ圓銀ノ數相増ス可ケレハナリ又買主ト為リテ損失スル所以ハ佛國ニテ若干ノ物貨ヲ購求スルニハ必ス之ニ相當スル所ノ錢貨ヲ得サル可ラス然ルニ若シ相庭下落スルキハ圓銀ノ價減シテ錢數ヲ得ルコト少ナキヲ

以テ終ニ物價昇騰スルノ理ト為ルナリソノ賣主トナリテ利益アルモ全ク之ニ齊シ例ハ若干錢ヲ以テ我カ物貨ヲ蘭國ニ賣ルニ若シ相庭下落シテ五十錢ヲ以テ一圓銀ニ當ルキハ佛國ニ收納スル所ノ金額ハ自ラ五十四錢ニ就キ銀一圓ヲ收納セシ時ヨリモ更ニ多數ナルカ故ナリ而テ商敵タル和蘭國ニ於テハ其事情全ク相反シテ佛國ニ若干圓銀ノ債ヲ負ヘハ則チ利益ヲ得ヘク佛國ヨリ之ヲ收納スレハ則チ損失トナル可ク賣主トナリテ損耗シ買主トナリテ利益アルモ亦復タ此ノ如シ

右ノ理趣ヲ更ニ一層詳説ス、ハシ譬ハ、為替相庭同等
ヨリ下落シテ銀一圓ニ付キ五十四錢ノモノ若シ減シ
テ五十錢ノ相當トナルハ佛國ヨリハ五万四千圓銀
ノ為替手形ヲ和蘭國ニ送致シテ僅カニ五万圓銀ノ價
アル物貨ヲ購求セサルヲ得ス之ニ反シテ和蘭國ヨリ
ハ五万圓銀ヲ佛國ニ送致シテ五万四千圓銀ノ價アル
物貨ヲ購求ス可ク斯ク兩國ノ間ニ所生ノ差ハ五十四
分ノ八ニシテ其佛國ノ損失ハ大約七ニ付テノ一ヨリ
多ク即チ佛國ハ為替相庭ノ同等ナリシ時ニ比スレハ
更ニ七圓ニ付テ一圓以上ノ貨幣又ハ物貨ヲ和蘭國ニ

輸出シテ不足ヲ賠補セサルヲ得ス一タビ貿易ノ權衡
ヲ失シテ買賣上ニ差異ヲ生スルハ為替相庭ハ連々
下落スルニ依リテ負債者其弊ヲ蒙ムルヲ漸ク深ク到
底滅亡ニ沈ムヲ免レサルニ似タリ事物ノ理斯ノ如ク
著明ニシテ必ス其效果ヲ結フヲ疑フ可ラサルニ更ニ
其患無キハ何ゾヤ、蓋シ既ニ第廿卷二十一回中論述セ
ル理由アルニ因テ各國皆ナ獨立ノ地位ヲ保タント欲
シテ貿易ノ權衡ヲ維持シテ為替相庭ノ高低ヲ平均ス
ルノ方向ニ傾倚スルヲ以テナリ然レハ諸國ニテ他國
ノ物貨ヲ需求スルニ方テハ唯タ其貨幣ヲ以テ之ヲ償

還ス可キ量額ヲ限度ト定メテ敢テ妄ニ其能力ニ超過
セスツノ賣ル所ヲ以テ其購フ所ノモノヲ預算セサル
ハナシ茲ニ佛國ヲ以テ之ヲ例スルニ若シ為替相庭五
十四錢ヨリ下落シテ五十錢ニ至レハ佛國ニ於テ一千
圓銀ノ價アル物貨ヲ求ムル所ノ蘭人ハ原ト五万四千
錢ヲ拂出サバルヲ得サレバ相庭ノ下落ニ付テ佛人ノ
兼諾ヲ得レハ之ヲ減シテ五万錢ト為スヲ得ハシト雖
佛蘭人ノ買客漸ク多キニ從テ佛國ノ物價ハ日ヲ逐ク
テ騰貴ノ勢アルヲ以テ貿易ノ利益ハ終ニ之ヲ佛蘭西
國人ノ間ニ折半スルトナリテ蘭人獨リ之ヲ占得ス

ルヲ能ハス是レ一人利益ヲ獲ルノレハ容易ニ之ヲ二
人ノ間ニ分配シ推シテ兩國ニテ之ヲ分配スルトト為
レハナリテ反對ノ事情ニ於テモ亦然ラサルハ元シ其初
ノ佛人ハ五万四千錢ニ値スル蘭國ノ物貨ヲ購フニ為
替相庭五十四錢ナレハ唯タ一千圓銀ヲ拂フテ不足ナ
カリシモ今ハ其下落ニ因テ之ヲ購フニ更ニ七分一ノ
價金ヲ増サバルヲ得サルカ故ニ佛國ノ商人ハ其損失
タルヲ覺悟シ自ラ足ヲ裏ミテ蘭國ノ物貨ヲ購求セサ
ルヘシ果シテ然ラハ佛蘭兩國ノ商人ハ相共ニ損失者
ト為リテ商業活潑ナラス兩國ノ為替相庭漸ク平均ノ

勢ヲ得ルニ至ル可シ是レ為替相庭ノ低落ハ必スシセ
理論上ニ於テ憂懼ス可キ大害ヲ生セサル所以ナリ
商人ハ假令為替ノ相庭同等ヨリ下落スル時ニ其資財
ヲ外國ニ輸出シテ損失ヲ招クコトアルモ交易シタル物
品ヲ内國ニ輸入スルニ因テ其失フ所ノモノヲ補フヲ
得レハ敢テ大害ヲ蒙ムルコト無シト雖氏國君ニシテ内
外貿易ノ權衡ヲ失シ正貨續々外國ニ濫出スルニ至テ
ハ更ニ之ヲ挽回スルノ目途ナク始終損失者タルヲ免
カレサルナリ

若シ一商人アリテ或國ト盛大ノ貿易ヲ營ム片ハ該國

ノ為替相庭必ス騰貴スハシ是レ貿易盛大ナレハ賣買
ノ契約自ラ多ク物貨ノ購求相増シ從テ其價ヲ拂スカ
為メニ外國ニ向テ為替手形ヲ振出スコト頻繁ナルヲ以
テナリ

國君ハ其封域内ニ巨大ノ貨財ヲ蓄積スルヲ得ハキモ
實際貨幣ノ缺乏ニ堪ヘス然ルニ他物ニ比較シテハ其
價位甚タ賤シキコトアリ例ハ某國ニテ外國ヨリ夥多
ノ物貨ヲ購求シテ負債者ト為ル片ハ為替相庭ハ貨幣
ノ缺乏ニ拘ラスシテ大ニ下落ス可シ

各地ノ為替相庭ハ斷エス一定ノ比例ト事物自然ノ勢

ニ歸向スルモノナリ今若シ愛耳蘭ヨリ英蘭ニ向タル
為替相庭同等以下ニ低落シ而テ英蘭ヨリ和蘭ニ向タ
ルモノモ亦齊シク低落スルハ愛耳蘭ヨリ直チニ和
蘭ニ向タル相庭ハ更ニ一層ノ低落ヲ致スハ無論ニシ
テ即チ愛耳蘭ヨリ英蘭ニ對シ英蘭ヨリ又和蘭ニ對シ
其為替相庭ハ全ク復比例ヲ為ス可シ是レ和蘭ノ商人
ニテ英蘭ノ商人ノ手ヲ經テ間接ニ愛耳蘭ヨリ貨幣ヲ
收受スヘキ者ハ決シテ更ニ高價ヲ拂フテ直接ノ為替
ニ因テ之ヲ愛耳蘭ヨリ收受スルヲ好マサルヲ以テ
ナリ理論上ニ於テハ固ヨリ然ラサルヲ得スト雖此實

際ニ於テハ目下ノ事情ニ應シテ此定理ヲ變化セシム
ルヲ敢テ無キニアラス或ハ甲地ニ向テ為替手形ヲ振
出シ或ハ乙地ニ向テ之ヲ振出シテ機變ニ應シテ利益
ヲ射ル是レ乃チ銀行ノ業ヲ營ムモノ、秘術老鍊ノ致
ス所ナリ其秘術老鍊ノ事ハ此一回ノ論題ニ屬セサレ
ハ之ヲ略ス
或國ニ於テ故ラニ貨幣ノ價位ヲ騰貴セシメ譬ヘハ從
來三「リ」ブル即チ一圓銀ト稱スルモノニ六「リ」ブル
即チ二圓銀ノ名稱ヲ下ス「アル」モ其新名ハ固ヨリ有
名無實ニ過キサレハ絶テ相庭上ニ於テ一錢ノ増價モ

得ル能ハス世人ハ唯タ新圓銀二個ヲ以テ舊圓銀一個ニ値スルノ錢數ヲ收受スルノミ偶僥倖ニシテ新貨其價ヲ増スヲアルモ決シテ法律ノ效果ニ因テ然ルニアラス全ク一時新奇ヲ喜フノ人情ト其事ノ急劇ニ出ルトニ因テ茲ニ到ルモノニシテ為替ノ相庭ハ舊立ノ比例ヲ固執シテ幾時ヲ經ルモ敢テ變化セサルナリ若シ政府、法律ノ力ニ依テ貨幣ノ價位ヲ騰貴セシムルヲ無ク唯タ其積量ヲ減削センカ為メニ之ヲ國庫ニ收攬スルヲアレハ造幣局ノ改鑄ヲ經由シテ再々世上ニ流通スルニ至ルノ間二種ノ貨幣ヲ見ルヲ往々之アリ

其形ノ大ナルモノヲ舊貨トシ其小ナルモノヲ新貨トス然ルニ其大ナル者ハ世上ニ流通セズ貨幣ノ效用ナキヨリ為替手形ノ如キハ新貨ヲ以テ仕拂ハサルヲ得サルカ故ニ人皆ナ相庭ノ高低ハ全ク新貨ヲ標準トシテ規定セラルヘシト思フカ故ニ譬ハ佛國ノ一圓舊貨蘭國ニ於テ六十錢ノ價アルモノハ減シテ半量ト為レハ其新貨ハ唯タ三十錢ノ價アル可キノ理由ナリ然レハ亦一方ヨリ之ヲ觀レハ為替相庭ノ高低ハ舊貨ヲ以テ規定セサルヲ得サルカ如キ事情アリ其故何トナレバ銀行主ニテ正貨ヲ所有シテ為替手形ヲ收受スル

モノハ舊貨ヲ新貨ニ交換センカ爲メニ必ス之ヲ造幣局ニ送致セサルヲ得ズ之カ爲メ多少ノ損失タルヲ免レサルヘキヲ以テ終ニ爲替ノ相庭ハ新舊二貨ヲ比較シテ中間ニ一定ノ價格ヲ規定スヘク而シテ舊貨ノ價自ラ減少ス可シ是レ貿易上ニハ既ニ新貨ノ發行アリ且ツ銀行主ハ其貯藏セル舊貨ヲ貸出シテ利子ヲ得ルノミナラス時トシテハ之ヲ以テ仕拂ヲ爲サハルヲ得サルニ因テ嚴密ニ法律ヲ遵奉シ能ハサルハナリ之ニ反シテ新貨ノ價格ハ必ス騰貴ノ勢アリ是レ銀行主ハ新貨ヲ所持シ之ヲ以テ舊貨ヲ求メテ大利ヲ壟斷スヘ

キノ地位ニ在ルヲ覺知スレハナリ果シテ然ラハ爲替相庭ハ前ニ論セシヤ如ク必ス新舊二貨ノ間ニ於テ一定ノ時價ヲ得ルナル可シ其勢茲ニ到レハ銀行主ハ舊貨ヲ外國ニ輸出シテ利益アルヲ看出スナラン是レ此方策ニ依レハ舊貨ヲ以テ正當ノ兌換ヲ爲スニ齊シキ利益ヲ得ヘク即チ蘭國ニ於テハ新貨ニ一倍セル錢貨ヲ收受シテ多數ノ圓銀ヲ佛國ニ輸入スヘキヲ以テナリ

例ハハ舊貨ノ一圓銀ヲ以テ佛國ニ在リテハ實際ノ相庭ニ依リテ四十五錢ニ兌換スルニ過キサルモ若シ之

ヲ蘭國ニ送レハ六十錢ヲ收受スヘキ時ハ舊貨ハ悉ク外國ニ輸出シテ其利益ハ全ク銀行主ノ占得スル所タルハ必然ナリ

此弊ヲ除刈セシムハ新タニ方策ヲ設ケサル可ラズ而シテ新貨ヲ鑄造シタル國ハ自ラ多量ノ舊貨ヲ其相庭ヲ支配スル國ニ輸出スルニ至ルハ勢已ムヲ得サル所ニシテ斯ク多量ノ輸出アルヲ以テ其國ノ信憑漸ク確立シテ終ニハ新貨ノ一圓銀ヲ以テ國外ニ於テ舊貨ノ價アル錢數ヲ得ルマテ其相庭漸ク騰貴スハシ相庭一タヒ騰貴シテ為替ノ方便ニ就テ利益ヲ獲ルト多ラサレ

ハ銀行主ハ舊貨ノ運費ト没官ノ危險ヲ恐レテ外國ニ輸出スルヲ止メ間接ニ内外相庭ノ平均ヲ致スナリ此事情ニ就テ茲ニ明瞭ナル一例ヲ示スモ亦多辯ニハ非サルハシ然レハベルナルド氏或ハ國立諸銀行ノ建議ニ由リテ蘭國ニ向タル為替手形ヲ引請ケ之ヲ實際ノ相庭ニ比シテ二三錢ノ高價ニ兌換シ而シテ絶エス輸出スル所ノ舊貨ヲ以テ外國ニ於テ兌換ノ預備ト為シ之ニ依テ前文ニ論セシカ如ク為替相庭ヲ騰貴ヒシメ一方ニ於テハ此機ニ乘シテ已カ所有ノ手形ヲ賣テ新貨ヲ攬收シ自餘ノ銀行主ニテ仕拂ノ算計ヲ為スモノ

ヲシテ悉ク其所有セル舊貨ヲ造幣局ニ送致セシメ暗
ニ一切ノ貨幣ヲ得タルカ故ニ終ニ自餘ノ銀行主ヲシ
テ最モ高價ニテ為替手形ヲ兌換セシメ結局自己ノ利
益ヲ以テ其初メ受得タル損耗ヲ償却セリ
此事業ヲ運営スルノ間、國家ノ危險ハ實ニ累卵ニ類ス
ルモノアリ第一ニ、貨幣ノ通用多分滯止シテ其價減少
スルニ由リ、第二ニ、其幾部ハ外國ニ輸出セラル、ニ由
リ、第三ニ、各人其利益ヲ國君ニ獨占セシムルヲ欲セ
ス、爭フテ貨幣ヲ蓄貯スルニ由リ、貨幣非常ニ缺乏シテ
其困難名状ス可ラス、緩ナルモ危ク、急ナルモ亦危ク、其

想像スル所ノ利益愈多分ナレハ其弊害モ齊シク之ニ
應レテ増加スルモノナリ

據此觀之為替相庭若シ下落シテ正貨ヨリ賤シキハ
之ヲ外國ニ輸送シテ利益ヲ得ルヲ猶ホ為替ノ相庭、正
貨ヨリ賤貴セシキニ之ヲ外國ヨリ輸入シテ利益ヲ獲
ルト同一理ナリ

然ルニ為替ノ相庭同等ナルニ方テ正貨ヲ外國ニ輸出
シ之ヲ再鑄シテ新形ト為シ以テ利益ヲ得ルヲアリ、之
ヲ國內ニ流通セシムルモ或ハ之ヲ以テ外國ノ手形ヲ
拂フトモツノ孰レモ我カ利益タルヤ疑フ可ラス

若シ國中ニ非常ノ大財ヲ備ヘタル會社ヲ創立レテ開
業以來未タ二三月ヲ經サルニ其株式ノ價沸騰シテ原
價ノ二十倍若クハ二十五倍ニ到リ或ハ銀行發行ノ證
券ヲシテ恰モ正貨同様ノ效用ヲ有セシムル時ハ則チ
事物自然ノ勢ヨリシテ此株式證券ハソノ世上ニ發出
スルヤ否ヤ俄カニ昇騰シテ止マラサルモ未タ幾クモ
無クシテ再ヒ其價墜落ス可シ何トナレハ株式昇騰シ
テ原價ノ二十倍乃至二十五倍ニ到ルハ之ヲ所有ス
ル人ハ已ニ紙幣ニテ巨萬ノ虛富ヲ擁スルカ故ニ人情
ノ赴ク所必ス之ヲ實富ト爲シテ安全ヲ謀ルナル可シ

而ノ爲替ノ方便アルアリテ人民ノ財産ハ之ヲ國外ニ
輸送シ或ハ何處ヲ論ヤス隨意ニ搬運スルニ最モ簡便
ナルヲ以テ人民ハ自ラ其財産ノ一部ヲ爲替ノ相庭ヲ
支配スル所ノ邦國ニ輸出スルニ至ルハ斯ク連々外
國ニ金銀ヲ輸送シテ斷サレハ其影響ハ爲替相庭ニ及
ビテ低落ノ勢ヲ招カサルハ無ケレハナリ試ニロウ氏
ノ空商ヲ企テシ時ヲ回想セヨ當時銀貨ノ本位ト重量
トニ比例シテ爲替ノ相庭ヲ一圓銀ニ付五十錢ト制定
セシカバ巨額ノ紙幣ヲ發行シテ通貨ト爲セシニ因テ
人民ハ一圓銀ヲ三十九錢以上ト兌換スルヲ欲セス

爾後三十八錢若クハ三十七錢ノ相庭ニ下落シテ尚ホ
底止セス一時ハ僅カニ八錢ニ兌換シ終ニ皆無ニ歸セ
リ
當時ハ全ク外國トノ為替相庭ヲ以テ佛國ノ正貨ト紙
幣トノ比例ヲ支配セシテ顯然タリ何トナレハ銀貨ノ
重量ト本位トニ基ケハ一圓ノ銀貨ニテ四十錢ノ價格
アルハキニ紙幣ヲ以テ為替ノ相庭ヲ立タルカ故ニ一
圓ノ紙幣ハ僅カニ八錢ノ價格アルニ過キマ其差異ハ
五分ノ四ニシテ即チ一圓ノ紙幣ハ之ヲ同位ノ正貨ニ
比スレハ其價格ノ五分ノ四ヲ減シタリ

第十一回 羅馬人ノ貨幣ニ於ル政畧ヲ論ス

我カ佛國ニ於テハ二人ノ宰相相續テ國政ヲ總攬シソ
ノ間通用貨幣ノヲニ就テ大ニ經綸ヲ盡クシ其權力ノ
強盛ナル實ニ近世稀ニ見ル所ナリシカハ之ヲ昔時ノ
羅馬人ニ比スレハ幾籌ヲ遜ルヲ免レス但シ羅馬人ノ
權力極盛ノ時トハ其共和政陵夷シテ風俗頹敗セル秋
ニアラヌ綱紀弛ミテ無政ノ國家クリシ日ニ非ス乃チ
伊太利ノ諸府邑ヲ征服シ加達義人ト雌雄ヲ天下ニ爭
ヒ法憲確立智勇全盛ノ時世ノ謂フナリ
予ハ此一事ニ就テ精密ノ考察ヲ下スヘキ機會ヲ得テ

更ニ引證ニ供スヘキ的例ヲ要セス詢トニ欣喜ニ堪ザルナリ

阜尼ノ初役ノ項ニ通用シタル一「アス」貨幣ノ名ハ銅十二「オンス」ナル可キニ其重量ヲ減シテ二「オンス」ト為シ第二役ニ至テハ唯タ一「オンス」ニ過キス此重量ノ減サセルハ全ク今日貨幣ノ騰貴ト稱スルモノニシテ即チ六「リブル」ノ一圓銀ヲ二分シテ二個ノ一圓銀ヲ鑄造シ或ハ其價格ヲ騰貴セシメテ十二「リブル」ニ通用セシムルト其理同一ナリ

羅馬人々阜尼ノ第一役ニ於テ施行シタル財政ノ如何

ハ文獻ノ得テ徵スヘキ無ク其形跡ヲ認メ能ハスト雖
 第二役ニ施行シタルモノニ於テハ備サニ其經綸ノ術ニ富メル一斑ヲ見ルニ足レリ蓋シ當時財政困難ヲ極ムルノ際ナレハ一「アス」ノ重量、銅二「オンス」及ヒ十「アス」ニ當ル一「デナリウス」ノ重量、銅二十「オンス」ノ制度ニテハ何分ニモ國債償却ノ目的ヲ得サルヨリ債主ニ對シテ半價ノ利益ヲ得シヲ謀リ乃チ其重量ヲ減シテ銅一「オンス」ノ「アス」ヲ鑄造シ十「オンス」ノ半量ヲ以テ一「デナリウス」ノ負債ヲ償却シタリ此措置ニ因テ國中ニ一大激動ヲ起スノ固ヨリ免ル可ラサル形勢ナレハ勉

メテ其動亂ヲ鎮靜シテ其政畧ノ不正不義ヲ掩飾スル
 一ニ拮据セリ之ヲ要スルニ羅馬人ノ目的ハ國士ニ對
 シテハ專ラ共和政ノ危急ヲ救フニ在ルカ故ニ國士各
 自ノ損失ヲ顧ミルニ暇アラサルヨリ續テ第二ノ措置
 ニ着手セサル可ラス於是從來十「アス」ノ價格アル一「デ
 ナリユス」ハ向後十六「アス」ノ價格ヲ有ス可シト命令シ
 タリ夫レ斯クノ如ク二回ノ措置ニ因テ共和政ノ債主
 タルモノハ銅二十「オシス」ノ一「デナリユス」ノ代二十六
 「オシス」ノ一「デナリユス」ヲ收受スルカ故ニ五分ノ一ヲ
 損耗シ物價ノ騰貴ハ五分ノ一ニ止マリ實際貨幣ノ變

化モ亦五分ノ一ニ過キサルノ效果ヲ奏レタリ自餘ノ
 景況ニ至テハ言フ俟クスレテ明カナルハシ

據此觀之羅馬人ハ之ヲ今日我國ノ財政ニ於テ公私ノ
 貸財ヲ一渾スルモノニ比スレハ其措置更ニ思慮周密
 ノルカ如シ是レ羅馬人ハ今日我國ノ形勢ヨリモ一層
 良好ノ地位ニ立タレハナリ

第十二回 羅馬人カ金銀ノ價ヲ變化シタル事情
 最初伊太利ハ金銀ノ礦山ニ乏レキヨリ國中ニ金銀甚
 タ鮮ナキカ故ニ奧盧人羅馬府ヲ陷レタル時ニモ僅カ
 ニ一千斤ノ黄金ヲ獲ルニ過キサリ然レモ羅馬人ハ

曾テ許多ノ大都府ヲ抄掠シテ其財寶ヲ本國ニ輸載シ
タリ且羅馬人ハ數百年ノ間銅貨ヲ除キテ他種ノ貨幣
ヲ通用セザリシカバイル、スト講和ノ後始メテ貨幣
ヲ鑄造スルニ足ルヘキ白銀ヲ所有シ之ヲ以テ「デナリ
イ」ト稱スル貨幣ヲ製作セリ此銀貨ハ其價十「アス」即チ
銅量十磅ノ實價アリ當時銀ト銅トノ比例ハ正シク一
ト九百六十トニ相齊シ是レソノ一「デナリユス」ハ十「ア
ス」即チ銅量十磅ノ價格アリシカ故ニ一百二十「オレン
ス」銅價ニ相當シ而メ一「デナリユス」ハ亦唯ク白銀一「オ
レンス」ハ分一ニ過キサルヲ以テ前文ノ比例ヲ得タリ

爾來羅馬ノ版圖擴開シテ希臘、西齊里ニ接近セル土地
ヲ占領スルニ至リ漸ク希臘、加達義ノ如キ富國ノ海外
ニ在ルヲ發覺シ羅馬ノ銀貨、年ヲ逐ノテ増殖シケレ
ハ已ニ銀銅二貨ノ間ニ一ト九百六十トノ比例ヲ保ッ
可ラス新クニ貨幣ノ價格ヲ變革セサルヲ得サルニ至
レリ然ルニ阜尼第二役ノ頃ニ一「デナリユス」ノ價格ハ
銅ノ二十「オレンス」ヨリモ多カラザルヲ以テ之ヲ見レハ
銀銅二貨ノ比例既ニ減シテ一ト百六十トニ及ヘリ此
減價ハ實ニ著大ナルモノニシテ羅馬政府ハ銅貨一種
ニ就テ六分ノ五ノ利益ヲ得タリ然レバ該國ニ於テ通

貨トシテ流用スル諸金屬ノ間ニ此比例ヲ規定セシハ
全ク事物自然ノ勢ニ由テ然ラサルヲ得サル措置ヲ為
セシノミナリ

卓尼ノ第一役終リテ干戈ヲ輯メレ後羅馬人ハ西齊里
全島ヲ版圖ニ加ヘ未タ幾クモ無クシテ撒丁島ヲ侵占
シ然後西班牙ヲ發見シテ白銀漸次ニ増殖シ從テ一
ナリユスノ重量ヲ二十「オンズ」ヨリ十六「オンズ」ニ減シ
タリ故ニ其初メ銀銅二貨ハ一ト百六十トノ比例ナリ
シカ當時ハ幣ニ一ト百二十八トノ比例ト為レリ
今日ヨリ當時羅馬人ノ施設セル事業ヲ考察スルニ非

常ノ功ヲ成就スヘキ好機ヲ撰ムニ於テ一モ間然スル
所ナク決シテ自餘ノ人民ノ企テ及フヘキニアラサル
ナリ

第十三回 羅馬帝國タリシ時ニ貨幣ニ就テノ施
設

羅馬共和政ノ時ニ貨幣ヲ變革セシハ其重量ヲ減削シ
テ政府ヨリ國幣ノ窮乏ヲ人民ニ通知セシノ毫モ欺隱
スルコト無カリシ其帝爵國タルニ及テハ金銀ニ劣質ノ
金屬ヲ混和シテ其品位ヲ賤クセリ蓋シ諸帝在位ノ間
濫ニ恩賚ヲ施シテ用度乏ヲ告ケ之ヲ補フニ術ナキヨ

リ貨幣ノ品位ヲ粗惡ニスルノ已ム可ラサルニ至レリ
 是レ人民ノ耳目ヲ掩飾スル間接ノ策畧ニシテ其實ハ
 恩賜ノ幾分ヲ減シテ直接ニ發覺セシメサルモノナリ
 故ニ嘗テ俸秩恩賜ノ減削ヲ公告セサレ民之ヲ收受ス
 ルモノニ於テハ其弊ヲ蒙ムラサルハ無キナリ
 吾人今日博物館ニ於テ鍍銀ノ舊貨ト稱シテ銀皮銅心
 ノモノヲ目撃スヘシ此舊貨ハ乃チダオノ著書第七十
 七卷ニ記ス所ノモノナリ

テイデユス、ジュリアン帝始メテ貨幣ニ劣質ノ金屬ヲ
 混和シテ品位ヲ粗惡ニシカラカルラ帝ハ又其混和物

ヲ過半ト為シ降テアレキサンドルセブエルス帝ニ至
 テハ之ヲ増シテ三分ノ二ト為シ其弊逐次相加ハリガ
 ルリニユス帝ノ頃ニハ僅カニ銀皮ヲ装フタル銅貨ノ
 外他ニ見ル可キモノナキニ到レリ

此ノ如キ財政ノ開明ノ今日ニ行ハル可キニ非サルハ
 談タスシテ明カナリ是レ國君ハ假令自家一己ノ心ヲ
 欺キ得ルモ決シテ億兆ノ人ヲ欺キ得ヘカラサルヲ以
 テナリ蓋シ為替相庭ノ路一タヒ洞開スルヤ銀行ノ業
 ヲ營ハモノハ忽チ宇内列國ノ貨幣ヲ見テ其品位ノ純
 雜ヲ比較シ之ニ準シテ至當ノ價位ヲ定メ得ヘキカ故

ニ政府貨幣ノ本位ヲ隱秘シテ人民ニ覺知セシメサル
ヲ能ハス若シ國君一タヒ其銀貨ニ他物ヲ混和スルヲ
アレハ自餘ノ人民モ之ニ倣フテ惡貨ヲ製造スヘキヲ
以テ真ノ本位ヲ備ヘタル正貨ハ直チニ外國ニ流出シ
粗惡ノモノニ非サレハ國內ニ還リ來ラス若シ又羅馬
諸帝ノ如ク金貨ニ着手セス當ニ銀貨ヲ粗惡ニスルニ
止マルハ金貨俄カニ散失シテ國中ノ通用ハ惡貨銀
貨ノ外ニル可ラス之ヲ要スルニ為替相庭ノ一法アル
ニ由テ前文ニ論ヒシカ如ク大ニ國君ノ威權ヲ逞フス
可キ方便ヲ視奪セリト謂フモ不可ナキナリ

第十四回 為替相庭アルニ因テ專制政ノ權威ヲ

抑制セル所以ヲ論ス

魯西亞ハ累世專制ノ威權ヲ兼襲ス可キニ敢テ然ルヲ
得サルハ蓋シ貿易ハ為替相庭ニ依頼シテ其地歩ヲ保
持シ而シテ買賣ノ事ハ決シテ專制ノ法律ト兩立ス可キ
ニ非サルニ由レリ

千七百四十五年ニ該國ノ女皇ハ猶太宗徒カ魯人ノ流
刑ニ所セラレテ西伯里ニ遠戍スルモノ及ヒ魯國ニ雇
事スル外國人ノ正貨ヲ國外ニ輸出スルヲ斷テオラサ
ルヲ憤リテ該宗徒ヲ國內ヨリ放逐ス可キ法律ヲ制定

シタリ何トナレハ該國ノ臣民ハ皆ナ奴隸ノ境遇ニ安
ズルカ故ニ政府ノ許可ヲ得スシテ躬ラ外國ニ赴キ或
ハ所有ノ動産ヲ輸送スルヲ能ハサレハ猶太宗徒カ為
替ノ方便ニ依リテ國民ノ貨幣ヲ外國ニ輸出スルハ全
ク魯國ノ法律ニ背馳シテ相容レラレサルヲ以テナリ
貿易ノ業務モ亦魯國ノ法律ト相鑒相容レサルノ勢ア
リ此國ノ人民ハ概テ農業ニ使役サルハ所ノ奴隸ト及
ヒ此等ノ奴隸ヲ使役シテ其身亦タ國君ノ奴隸タルヲ
免レサル所ノ僧侶貴族ヨリ成立シ國中ニ絶テ工業商
務ニ従事スヘキ自主ノ平民アラサレハナリ

第十五回

伊太利ニ實施シタル慣習

伊太利ノ或部ニ於テハ貨幣ノ外出ヲ抑防センカ為メ
ニ其臣民タル者ニ所有ノ土地ヲ賣鬻スルノ法禁ヲ制
定シタリ若シ夫レ一國ノ富ハ全ク土地ニ密附シテ相
離レス之ヲ外國ニ運搬スルヲ容易ナラサルガハ之ヲ
有效ノ良法トモ謂フ可ケレト一タヒ為替ノ方便開通
シテ以來富ハ土地ニ拘束セラレス頗ル運移ノ自由ヲ
得ルヲ以テ之ヲ甲國ヨリ乙國ニ輸送スルハ最テ難事
ニアラス然ラハ則チ人民ヲシテ隨意ニ其貨幣ヲ賣買
セシメ却テ其所有セル土地ニ至テ一己ノ利益ヲ謀リ

テ之ヲ賣鬻セシメサルノ法律ハ苛虐ニアラスシテ何
ソヤ殊ニ此法律アルヨリ人情自ラ土地ヲ賤ミテ動産
ヲ貴ミ國中ニ外國人ノ移住スルヲ遮妨シ且之ヲ犯ス
モ規避スルニ便ニシテ寸益ヲ見サルヘキナリ

第十六回 國家時トシテ銀行ノ扶助ヲ得ヘキ事
夫レ銀行ノ業務ハ貨幣ヲ人ニ貸スニアラスシテ之ヲ
兌換スルニ在リ而メ國君カ銀行ヲ開キ以テ其貨幣ヲ
兌換セシムルハ大事ノ起ルニ遇フノ外ニ在ラサルカ
故ニ之ヲ外國ニ遞送スルニ就テ國君ヨリ銀行ニ下付
スル所ノ利益ハ輕少ナリト雖モ著シキ巨額ト為ルモ

ノナリ此機ニ乘シテ銀行ニ於テ大利ヲ貪ルカ如キハ
其業務ヲ經營スルノ正鵠ヲ失スト謂ハサルヲ得ス之
ニ反シテ若シ銀行ニ依頼シ貨幣ヲ貸出セシムルニ方
テハ高利放債ノ譏ヲ蒙ムラスシテ大利ヲ獲ヘク且之
ヲ運用スルヲ以テ其業務ニ練達スト謂フヘシ

第十七回 公債ヲ論ス

或人以為ラク政府ニテ公債ヲ募ルハ一國ノ利益ナリ
ト此論ハ公債ヲ起スヲ以テ通貨ノ額數ヲ増加シ隨テ
國富ヲ増益スルモノト誤解セルナリ
察スルニ此説ヲ作ス者ハ公債証書ヲ以テ夫ノ正貨ノ

代理タル通用紙幣若クハ會社ノ収益或ハ貿易ノ利潤ヲ標示スル所ノ通用証券ト混同シタルニ由ルナルヘシ抑モ通用紙幣會社証券ノ如キハ其額數ノ増加スルニ從テ國家ノ利益ト為ル可シト雖氏公債証書ニ至テハ決シテ斯ノ如キヲ得ス唯タ之ニ希望ヲ繫ク所ハ政府ノ保証ヲ信シテ各人其所有セル証書ヲ安固ナリト覺フニ過キス然ルニ之ニ依テ所生ノ弊害少ナカラス即チ左ニ掲載スルカ如シ

第一 若シ巨額ノ公債証書外國人ノ掌握ニ歸スルハ之ヲ發行セル國ヨリ毎年巨額ノ利息ヲ拂ヒ出サ

ル可ラス

第二 始終外債ヲ負フ所ノ邦土ニ於テハ為替相庭極ノテ下落スルハ必然ノ勢ナリ

第三 公債ノ利息ヲ拂フカ為ノニ租稅ヲ徵收スレハ工匠ノ給料從テ騰貴シ終ニ製造工業ノ妨害シルヲ免レス

第四 公債ハ恰モ工業ニ勤勞スル者ノ手ヨリ國家ノ歳入ヲ取テ之ヲ坐食ノ人_{債主}ニ付與スルカ如シ審カニ之ヲ言ヘハ勤勞セサル者ニ與フルニ勤勞ニ代フルヘキ便益ヲ以テシ工業ニ拮据スル人ニ苦任ヲ負

荷セシハルナリ

以上ノ諸項悉ク公債ノ不利ニシテ一項ノ利益ヲモ見
ル可ラス譬ヘハ茲ニ十人アリ各其不動産或ハ職業ニ
依テ一年一千金ノ収入ヲ有スレハ之ニ一年五歩ノ利
息アリトシテ該國ニ二十万金ノ財本アルノ理ナリ然
ルニ若シ此十人ニテ負債十万金ノ利ヲ拂フカ為ノニ
其収入ノ半額即チ五千金ヲ支出スル片ハ則チ該國ノ
財本ニ於テハ唯タ十万金ノ減額アルカ如クナレ氏其
實ハ二十万金ノ負債アルニ異ナラス之ヲ代數學ノ方
式ヲ假テ證明スルヲ左ノ如シ二十万金ノ中ヨリ十万

金ヲ減シ之ニ二十万金ヲ加フレハ二十万金ト為ル

公債ヲ國益ナリト思フハ蓋シ人民ニ於テ公債証書ヲ
誤解シテ富ノ信標ト認メ其國富饒ナラサルコリハ決
シテ証書ノ價ヲ維持シテ下落セサルモノハ殆ト罕矣
然ルニ之ヲ維持シテ下落セサルハ全ク該國別ニ富源
ヲ有スルノ證據ナリト信スレハナリ其言ヲ聞ケハ此
証書ニハ其抵當タル財源ノアルアリ故ニ公債ハ有害
ノモノニ非ス此國ノ財源ハ其害ニ超過セリ故ニ利益
ナリト謂フニ過キス

第十八回 公債償却ノヲ論ス

先ツ債主タルノ國ト負債者タルノ國トニ就テ各自ノ地位ヲ立テサル可ラス抑モ那一國ニ限ラス始終債主タルノ地位ヲ保テ得ヘシト雖モ負債者タルニ方テハ一定ノ限度アリ之ヲ踰ヘテ其地位ヲ保ツテ得ス此限度ヲ超ユレハ則チ國計滅亡シテ債主タルモノハ賠償ヲ求ムル權理ヲモ放棄セサルヲ得サルニ至ル若シ夫レ一國ノ信憑確固ニシテ一線ノ破綻ヲモ露ハサ、ル片ハ乃チ歐洲中某王國英ノ成績ニ倣フテ財政ノ大本ヲ立テ以テ佳良ナル結果ヲ得ヘシ審カニ之ヲ言ヘハ國信ニ由テ多量ノ正貨ヲ得ヘク假令人民ハ公

債ノ利息ヲ減省セサルモ政府ヨリ各私人ニ公債ノ償却ヲ發言スルヲ得ヘク且政府ヨリ人民ニ向テ公債ヲ募ル片ハ人民ニテ其利息ノ高低ヲ定メ一タヒ之ヲ償却スル片ハ政府ニテ將來ノ利息ヲ定ムヘキナリ政府ハ特リ利息ヲ減却スルニ止マラス毎年其元金ノ一分ヲ償却センカ為ノ減利ノ方畧ヨリ所生ノ餘裕ヲ將テ更ニ消債資本金ノ設クルヲ必要トセリ是レ彼國ノ財政日ニ振フテ官民ノ福利ヲ増進セル所以ナリ政府ノ信憑十全ナラサルニ方テハ尚更ニ消債資本金ノ設立ニ拮据シテ一日モ怠ル可ラサルノ理由アリ何

ソヤ一タヒ消債ノ資本金ヲ設クルハ忽チ人民ノ信憑ヲ得ヘケレハナリ

第一 若シ共和ノ邦ナレハ政體ノ由テ然ラシムル所自ラ悠遠ノ目途ヲ定ムルニ適當スルヲ以テ消債資本金ハ敢テ巨額ニアラサルモ妨ケ无シト雖モ立君政ノ如キハ資本金ヲ大ニシテ消却ノ目途ヲ速ニモサル可ラス

第二 苟クモ其國ノ臣民ハ皆チ國債ヲ負荷ス可キ義務アラサルハ無ク而モ債主タルモノハ即チ躬ラ國ニ出ス所ノモノニ向テ躬ラ辨償ヲ求ムル力故ニ消

債資本金設立ノ規則ニ於テハ必ス之ヲ人民一般ノ負荷スヘキ任務ト為スヲ要ス

第三 國債償却ノ任ヲ荷フ人四類アリ、土地ヲ所有スルモノ、商業ニ従事スルモノ、工匠力役者及ヒ政府或ハ私民ヨリ俸給ヲ得ル者はレナリコノ四者ノ中ニテ俸給ヲ食ム者ハ唯タ他人ノ供給ヲ仰クノミニテ自ラ生産ニ従事スルヲ無ク農工商ノ三類ハ各其業務ヲ勤メテ國脉ヲ培養スルモノナレハ若シ勢已ムヲ得スシテ新タニ征歛ノ法ヲ設クルニ至テハ農工商ニ薄クシテ俸給ヲ仰クモノニ厚ラサルヲ得スト

想像スルナラン然リト雖一國ノ公衆就中農工商ノ信憑ヲ破ラシテハ那一類ニ於テモ重税ヲ賦課スル能ハス且一類ノ信憑ヲ失スルハ即チ一國公衆ノ危疑ヲ招クヲ免レス殊ニ債主ノ地位ニ居ル人民ハ常ニ執政者ノ謀畧ヲ運ス所ノ目的ト為リ直接ニ注視サレテ聚斂格克ノ苦ヲ受クヘキヲ以テ政府ニ於テハ故ラニ此等ノ人ヲモ保護シテ以テ負債者ヲシテ決シテ債主ニ超ヘタル利益ヲ保テ能ハサラシムルヲ要ス

第十九回 放債収利ノコトヲ論ス

貨幣ハ物價ノ信標ナリ故ニ此信標ヲ需要スル人ハ之ヲ其用ニ供スルニ就テ一定ノ賠償ヲ為サル可ラサルハ猶ホ自餘ノ諸物ヲ需用スルハ於ルト齊シキハ論ヲ俟タスシテ明カナリ唯タ自餘ノ諸物ハ或ハ之ヲ借用シ或ハ之ヲ購求スルヲ得ヘキモ貨幣ハ物ノ價ナルヲ以テ之ヲ借用スルニ止マリテ之ヲ購求スヘカラサルノ差異アルノミ是ニ所論ノ貨幣ハ商品ト看做シタル金銀ヲ言フニアラズ讀者混同スル勿レ金ヲ人ニ貸シテ利ヲ収メサルハ極メテ讚美ス可キ徳行ナリ然レモ全ク道德上ノ教訓ニシテ絶チ民法ニ關

係ヲ有セサルナリ

商業ノ運為ヲ快利ニセシカ為メニハ貨幣ヲ用ウルノ
賃價即チ利息ノ制限ヲ立テサル可ラス而ノ其制ハ甚
タ貴カラサルヲ緊要ナリトス蓋シ利息甚タ貴ケレハ
則チ放債ノ利ハ貿易ヲ經營シテ得ル所ノモノヨリ居
多ナルヲ以テ商業衰微シテ終ニ發奮業務ヲ營ムモノ
ナキニ至ラン若シ之ニ反シテ金ヲ貸スモ其利ヲ得ル
ル片ハ一人トシテ放債スルモノ無ク財源壅塞シテ經
營スヘキ商業ナキニ至ラン

然リト雖ル社會ノ事情已ム可ラサルヨリ假令金利ノ

制相立サルモ一人ノ債ヲ放ツヤノ無シト謂フニアラ

サルナリ唯タ世態斯ノ如キニ到レハ制外ノ高利貸流

行シテ人民ノ秩序ヲ紊亂シ常ニ紛紜斷ヘサルノミ

馬哈默ノ法律ハ放債收利ノ事ト制外高利貸トヲ混同

スルニ依リテ回教ヲ奉スル諸國ニ於テハ禁制益嚴酷

ナルニ從テ高利貸益流行マリ是レ之ヲ貸ス人ハ故ラ

ニ其利ヲ貴クシテ以テ一旦發覺スル片ニ刑罰ヲ蒙ム

ルノ苦ヲ償フニ由レリ

東洋諸國ノ人民ハ所有物ノ安固ヲ保チ得サルモノ十
中ノ八九ニ居ルヲ以テソノ現ニ所有スル金額ト及ビ

之ヲ貸出シ利息ヲ生シテ收回ス可キ希望トヲ比較シ
ラ損益得失ヲ計リ能ハサルカ故ニ其ノ一タニ貸出セ
ルモノヲ回収シ能ハサルノ危険ニ應シテ利息騰貴セ
サルヲ得サルナリ

第二十回 海上高利貸ノヲ論ス

海上放債ノ非常ニ高利ナルハ專ラ左ノ二事ニ因由ス
第一海上ハ風濤ノ危険測ル可ラサレハ金ヲ貸スモノ
ハ外ノ利ヲ望ムニ非サレハ此危道ヲ蹈ムヲ無シ第
二借主タルモノ、貿易ノ便利ニ依リテ速カニ大利ヲ獲
ヘキヲ以テナリ然ルニ陸上ニ在テハ更ニ此二由アラ

サルカ故ニ制法者高利貸ヲ禁制スルカ或ハ當時ノ事
情ヲ酌量シテ適宜ノ制限ヲ立テサル可ラス

第廿一回 契約ヲ以テ債ヲ放ツト及ビ羅馬人ノ

高利貸ノ情態ヲ論ス

貿易ノ利益ヲ預料シテ債金ヲ放ツノ外更ニ民事上ノ
契約ニ依リテ之ヲ貸スニアリ是ヲ收利放債ノ起源ナ
リトス

羅馬人民ノ權威日ニ月ニ增長ノ勢アルヲ視テ當時
ノ寧官平民ノ爲ノニ極メテ便利ナル法律ヲ制定シ以
テ私恩ノ賣リテ人心ヲ收攬セント欲シ乃チ財本ヲ減

却シテ先ツ金利ヲ賤クシ後ニ之ヲ禁制シ而ノ又債主
ニテ負債者ヲ拘留スルノ權ヲ褫奪シ終ニハ民委官ニ
人望ヲ釣ント欲スルモノ起レハ必ス負債償却ノ義務
ヲ消除スルコトヲ主張セリ

斯ノ如ク政府ノ法律ニ據リ或ハ民會ノ議定ニ基キテ
貸借法ヲ變革スルコト數回ノ多キニ及ビシカニ之ヲ制
止スルコト能ハス高利貸ハ竟ニ羅馬固有ノ慣習ト爲リ
テ益流行ノ勢熾ナリ何トナレハ債主ノ眼ヨリ人民ヲ
看レハ負債者タリ法制官タリ裁判官タリ權柄其手ニ
歸シテ操縱意ノ如クナラサルハ無キヲ以テ已ニ契約

ニ憑依シテ其義務ヲ履行セシム可ラサルニヨリ一人ノ
敢テ債金ヲ放ソモノアラヌ又人民ハ恰モ負債者ニシ
テ信憑ヲ失フタル境遇ニ在リテ貸借路ナキヲ以テ特
リ制外ノ高利ヲ餌ニシテ債主ノ欲火ヲ煽動スルノ一
法アルノミ殊ニ法律ノ作用ハ全ク一時眼前ノ弊害ヲ
矯正スルニ過キサレハ一法ノ制定ニ從テ一弊ヲ生シ
人民窮ヲ告クルモノ陸續トシテ斷エヌ債主恐懼ノ情
愈増加セリ是レ羅馬ニ於テ正路ノ貸借全ク禁止セラ
レ而ノ嚴禁苛法アルニ拘ラス高利貸ノ慣習盛ニ該都
府ニ行レタル原因ナリ抑モ此弊ヲ專ラ高利ヲ禁スル

ノ法律過嚴ナルニ由テ生スルモノニシテ即チ極善ノ法律ハ極大ノ弊害ヲ醸スノ根幹ト爲リ終ニ負債者ハ必ス借用シタル金利ヲ償還セサルヲ得サル而已ナラヌ更ニ債主カ高利貸ノ禁ヲ犯シテ受クル所ノ刑罰ノ危険ヲモ賠償セサルヲ得サルニ至レリ

第廿二回 同上

國初ノ羅馬人ハ曾テ金銀制限ノ法律ヲ設ケサリキ
人ハ高利貸ト収利故 右制限ノ事ニ就テハ貴族ト平民
債ノ區別ヲ立テス
ノ間ニ爭論起リ甚シキハ平民蜂起シテセーセル陵ニ
屯集シテ一時都府ノ騷亂ト爲レリ然レバ其口實トス

ル所ハ一ハ裁判ノ公平ヲ求ノ一ハ契約ノ嚴ニ過ギル
ヲヲ愁訴スルニ止マレリ

按スルニ當時私約ノ貸借ハ通例一年一割ニ歩ノ利息
ニ定メシナルヘシ羅馬人ノ古語ニ六歩ノ利ヲ半利ト
稱シ三步ヲ四不一ノ利ト稱スルニ依テ見ルヘキナリ
若シ人アリテ羅馬人ノ如キ殆ト貿易ニ從事セサル人
民ニシテ何ッ斯ノ如キ高利ノ貸借法ヲ定メ得ヘキヤ
ト問ハ、答ヘテ言ハントヌ該人民ハ一定ノ俸給ヲ得
スシテ往々戰ニ赴クヘキ義務アルヲ以テ出發ノ期ニ
臨テ借金セサルハ無シ然ルニ遠征ハ常ニ利運ヲ得ル

ノ機會ニノ凱旋ノ上ハ固ヨリ之ヲ償却スルノ容易ナ
リシヲハ當時之ニ就テ議論ヲ生セシヲ讀テ知ル可シ
蓋シ其議論ハ更ニ債主ノ多キヲ貪ルニ就テ紛糾ヲ生
スルニアラス苟モ人民ノ生計其路ヲ得ハ負債ニ就テ
歎訴スル者ヲシテ償却ノ術ヲ得セシムヘシト云フニ
在ルノミ
該人民カ議定シタル法律ハ專ラ現在ノ事情ニ映響ヲ
與フノミニテ永久ノ目途ニアラス譬ハハ躬ヲ招募ニ
應シテ戰場ニ赴ク者ハ債主ニ責迫サレテ困難ヲ受ク
可ラス獄中ニ拘留セラル、者ヲ解放シテ自由ノ身ト

為ス可シ極メテ貧窮ニシテ生計ノ目途ナキ者ハ海外
ノ植民地ニ移住セシマルカ如キ法制ニシテ時トシテ
ハ更ニ國帑ヲ發シテ貧民ヲ救助セシヲアリ斯ク人民
ハ唯タ一時燃眉ノ急ヲ免レ得タルヲ以テ自ラ心身安
堵シテ將來ノ謀ヲ立テス亦元老院ニ於テモ曾テ其預
備ノヲヲ議セサリキ
曾テ元老院カ收利放債ノ議ヲ固執シテ敢テ一步ヲ讓
ラサル時ニ方テ羅馬ノ人民ハ一般ニ清貧儉素ノ風ヲ
愛シテ切ニ收利ノ美事ニアラサルヲ嫌ハリ是レ貴族
平民ノ間ニ異議ヲ生セシ所以ナリ然ルニ其政體ヲ顧

ミレハ一切政府ノ費用ハ國士ノ富貴ナルモノニテ之ヲ擔當支給シテ平民ハ之ヲ度外ニ置テ敢テ關係セザリシナリ何ソ貴族ヲ抑制シテ其負債者ヲ追責スルノ權ヲ褫奪シテ其國家ニ對シ專ラ職分ヲ盡サンコトヲ要求ミ且ツ財政ノ困難ヲ維持セシメント欲スルヲ望ム可ケンヤ元老院ノ之ヲ聽サルモ亦宜ナル哉
タレントス曰ク十二銅表ノ律典ニ金利ヲ百分ノ一二定メタリト此言ハ金ク氏ノ誤解ニシテ其出典ハ予カ茲ニ論セントスル他ノ法律ニアルト明カナリ若シ氏ノ言ヲ信シテ此金利ノ制ヲ以テ十二銅表ノ律典中ニ掲

ケタルモノト爲サハ何故ニ其後債主負債者ノ間ニ爭論ヲ生セシ時ニ之ヲ引用シテ其葛藤ヲ斬斷セザリレヤ吾人決シテ此律典中ニ収利放債ノ痕跡アルヲ看出スコトナシ一步進テ廣ク羅馬ノ史乘ヲ搜索シタランニハ此ノ律典ハ更ニ彼ノ十員ノ執政官ノ制作ニ非ザルノ證據ヲ得ハシ

リシニアシノ法律ハ十二銅表ノ制定後八十五年開國ノ三百八ニ議定スル所ニシテ一時金利ノ制ヲ定メタル規則ナリ此法制ニ據レハ曩年ニ利息トシテ相納タル金額ヲ元金ノ中ヨリ除去シ而シテ其殘額ヲ三分

シテ三四ニ償却ス可シト命令シタリ

建國三百九十八年ニ民衆官ドユリユス、メチニコスノ
二人金利ノ制ヲ減シテ一年百分ノ一ト爲スノ法律ヲ
議定シタリ是レ即チタシトスカ十二銅表ノ律典ト誤
マリシ所ノモノニシテ羅馬人カ始メテ金利ノ制ヲ定
メタルノ法律ナリ後十年ヲ經テマシリユス、トルカト
ス、プロチユスノ諸統領之ヲ減シテ二百分ノ一トナシ
終ニ全ク之ヲ禁止スルニ至レリ而ノ若ン信ヲリビ
一々引用セル記者ノ言ニ置ケハ其禁止ハ建國四百十
三年ニシテマルチユス、ルチリユス、セルフリユスノ統領

タル時ニ在リ

此法律ノ作用ハ制法者カ事物ノ適度ヲ超ヘテ制作セ
ルモノニ於ルカ如ク弊實百出人民容易ニ之ヲ遁逃シ
タルヲ以テ執柄官更ニ之ヲ愈緊束シ或ハ之ヲ改正ノ
制限ヲ設ケンカ爲ノニ許多ノ法律ヲ議定シ、時トシテ
ハ民間普通ノ慣習ニ因循シテ此法律ヲ放棄シ、時トレ
テハ慣習ヲ止メテ法律ヲ遵奉セシメタリシカ氏常ニ
法律ノ作用ハ慣習ノ流行ニ壓制サル、トト爲リ若レ
金ヲ惜シト欲スル人アレハ固ト已レカ便益ヲ謀リテ
設ケタル法律ノ爲メニ却テ障礙セラル、ニ依リソノ

保護ヲ得ル者主 借ト刑罰ヲ蒙ムル者主 貸ト相謀リテ俱ニ

法禁ヲ遁逃スルノ術ヲ竭スニ到レリ憲官ヤムプロニ

ユスアヤリユスノ如キハ時勢人情已ニ行フ可ラサル

ノ嚴法ヲ回復スルヲ企テ負債者ニ之ヲ履行スルヲ

ヲ許容シ竟ニ債主ノ殺害スル所ト為レリ茲ニ姑ラク

筆ヲ羅馬ノ都城ニ擱キテ其州郡ノ形勢ニ論及セント

ス

羅馬ノ州郡カ暴政苛法ニ苦メラレテ人民疲弊ヲ極メ

シハ已ニ卷中所々ニ論述スル所ノ如シ而シテ其疾苦

一端ニ止マラス復タ恐ル可キ高利貸ノ為ノニ殆ト滅

亡ニ瀕シタリ

シマロノ言ニサラムニスノ住民羅馬ニテ若干ノ金額ヲ

借用セント欲シタレバガビニアノ法律アルカ為メ

ニ其事成就セサリシヲ記セリ故ニ先ツ此法律ノ性

質ヲ考究セシムハアル可ラス

羅馬ニテ収利放債ノ禁令ヲ發行スルヤ否ヤ人民ハ百

方計ヲ盡シテ此法網ヲ規避シタリ當時羅馬ト盟約ヲ

結フ所ノ他國人及々拉丁人ハ羅馬ノ民法ニ遵從セサ

ルヲ以テ府中ニテ放債スルモノハ該國人ノ名ヲ假テ

偽リテ債主ト為セリ故ニ此禁令ハ徒法死律ニシテ曾

高去青里 卷之三 五十二

テ實效ヲ奏セス人民ノ疾苦ハ依然舊ノ如シ
人民器々トシテ債主ノ奸ニ不平ヲ鳴スヨリ民委官マ
ルユス、セムグロニユスハ元老院ノ命ヲ奉シテ此禁令
ヲ實施センガ爲メニ民會ヲ開キテ以後一切ノ貸借法
ハ同盟ノ他國人拉丁人ト雖氏羅馬ノ府民ニ於ルカ如
ク高利ヲ收ム可ラサル旨ヲ議定セリ
其同盟ノ他國人ト稱セシハ伊太利ノ人民一般ヲ指セ
ルモノニシテ其封域ハアルノールビコンノ地方ニ到
リ羅馬州郡ノ治體ニ屬セサルモノナリ
タシトスノ說ニ曰ク高利貸禁止ノ法律既ニ制定アル

ニ遇ノ片ハ忽チ新弊ヲ生シテ之ヲ根絶スルヲ能ハス
羅馬人已ニ同盟國人ノ姓名ヲ以テ貸借スルヲ禁止
セラル、ヲ看レハ直チニ州郡ノ住民ヨリ借用スル
ヲ工夫セリト
此惡弊ヲ矯正センカ爲メニ新法ヲ設ケサルヲ得サル
ノ勢ト爲リ五百六十一年ニ到テ統領ガビニースハ撰
舉ノ時ニ行ハル、所ノ惡風ヲ防禦セント欲シテ夫ノ
著名ナル法律ヲ制定セリ今其之ヲ制定セン所ノ精神
ヲ尋ヌルニ此目的ヲ達スルニ最良ナル方法ハ収利放
債ノヲ嚴禁スルニ如カスト思惟シタルヤ必然ナリ

是レ撰舉ノ事アルニ方テ其撰ニ膺ラント欲スルモノ
ハ賄賂ヲ以テ投票ノ多數ヲ買フカ為メニ金圓ノ借用
ニ熱心セシヲ以テ高利貸ハ常ニコノ時ニ流行スレハ
ナリ然リ而メガビニヤンノ法律ハ乃チマルクユスセ
ムプロニユスト稱スル元老院議定書ヲ州郡ニ施行セ
ルモノニシテ此法律アルカ為メニサラミスノ住民ヲ
シテ羅馬ニ於テ貸借ノ事ヲ營ム能ハサラシメタル丁
明瞭ナリ然ルニブルキユスハ假名ヲ冒シテ該住民ニ
四分ノ利^明百ハ六百「ク」レント「ト」ヲアリヨバルザチス
^正ニ貸與レ毎三十日ニ三十三「タ」レント「ト」ノ
利ヲ収^メニテ若干金ヲ貸與^シ之レカ為メニ元老院ニ二

件ノ議定書ヲ請得タリ其一ニハ此貸金ハ法網ヲ避ク
ハキモノト認ム可ラス其二ニハ西齊里ノ鎮尹(即チブ
ルトス)ハ須ラク該住民ノ證券ニ記載セル契約ニ從テ
之ヲ裁斷ス可シト明言セリガビニヤンノ法律ヲ以テ
州郡ノ人ト羅馬ノ府民ノ間ニ収利放債ノ「ト」ヲ禁止セ
シニ當時羅馬ノ府民ハ宇内ノ寶貨ヲ一府ニ集メテ甚
タ殷富ナルヨリ制外ノ高利ヲ餌トシテ富民ヲ誘惑ス
ルノ惡徒日ニ増加シ終ニ多欲贅ナト者ヲシテ其寶貨
ヲ失フノ危險ヲ忘レシメタリ而シテ此富民ハ亦羅馬府
中ニテ頗ル權力アリ常ニ宰官ニ迫リテ立法ノ管鍵ヲ

掌握セシカ故ニ益勢焰ヲ得テ貸金ニ從事シテ大利ヲ壟斷セリ斯ノ如ク州郡ノ民ハ都下ノ債主ノ為メニ漸ク膏血ヲ絞取サル、ノ勢ナルヲ以テ鎮尹始メテ其任所ニ着スレハ適宜ニ金利ノ制ヲ定メテ之ヲ管下ニ布達シ更ニ一定ノ法制アラズ制法官ハ貪欲者ノ掄擲スル所ト爲リ貪欲者ハ亦制法官ノ醜態ヲ助クルノ方便ト爲レリ

時勢斯ノ如シト雖ル公眾ノ業務ハ一日モ停止ス可ラス人其事ヲ事トセサレハ坐シテ國家ノ滅亡ヲ待ノ外アラズ故ヲ以テ地方公會、公立會社等ノ公人ト雖ル猶

ハ各私人ニ於ルカ如ク借金ノ方便ニ賴ラサルノ得ス就中軍國ノ抄掠、宰官ノ貪暴、收稅吏ノ苛責ヲ脩補シ日ニ月ニ傳播スル所ノ惡風陋俗ヲ洗滌スルカ如キハ事情甚タ切迫シテ朝夕ヲ保タス借金ノ計ニ由ラサルヨリハ燃眉ノ急ヲ救ヒ能ハサルノ情實アリ而シテ元老院ハ行政權ヲ掌トルヲ以テ事勢已ムヲ得サルニ至レハ特ニ寬典ヲ施シテ羅馬ノ府民ヨリ借金スルヲ准許シ其ノ爲メ故ラニ法令ヲ發行セリ然レモ此法令モ亦法律ノ爲メニ箝制セラレテ無効ニ屬シ人民ハ金利ノ新制ヲ主張シテ其元金ヲ失スルヲ恐レテ高利貸ハ

益擴張セリ故ニ一言ヲ下シテ曰ク人ヲ治ムルハ一
極ニ偏ス可ラス必ス中庸ヲ執ルヲ要スト
ユルビアン曰ク最モ遅ク拂フモノハ最モ少ナク拂フ
モノナリト此一言以テ金利ノ制ヲ設クルノ物理ニ適
スルヤ否ヤヲ決定スルニ足レソ何ソヤ債主ハ時ヲ賣
リテ金利ヲ收メ負債者ハ之ヲ買フテ金利ヲ拂フモノ
ナレハナリ

萬法精理卷之廿二畢

明治八年十一月廿八日版權免許

繙譯並出版人 何 禮之

東京富士見町四丁目十一番地

馬喰町二丁目

島村利助

芝太神宮前三島町

山中市兵衛

日本橋通三丁目

丸家善七

南傳馬町二丁目

穴山篤太郎

發兌
書林